

国民の生命・財産・資産の保護



能美防災株式会社 代表取締役社長 **伊藤 龍典**
Tatsunori Ito

昨年の10月末日未明に、木立越しに紅の炎が立ち上る報道映像を見て衝撃を受けました。翌日、焦土と化した惨状映像を見させられたときには、本当に空虚な時間を漂っていたように感じました。ご存知、沖縄首里城の火災です。

今年、沖縄を訪問する機会に是非立ち寄り、歴史の見聞を広めたいと思っていた矢先の出来事でした。ましてや沖縄県民にとっては琉球の歴史を語るうえで極めて重要な場所であり、平和と繁栄の築く拠点として象徴を失うこととなったわけで、精神的なよりどころであったからこそ何度か焼失してきたが、そのつど復元してきたわけです。

歴史的建造物に興味を抱いて私は全国の城郭を回ってきました。現存、天守は12城(国宝5城・重文7城)あり、それぞれに風情があり、地元の象徴でもあり、資産でもあり、財産でもあることを感じてきました。半数は江戸時代に建てられたものですが、それ以外の天守は地震による倒壊や大火、落雷による火災で江戸時代に復元されたものです。江戸時代だけでも15の城が落雷の火災で焼失されて以降、復元されずに至って各地に城跡公園としてとどめている状態です。貴重な国民的財産が火災によって継承できない結果になってきました。

城郭だけではなく、たくさんの文化的資産

が火災の犠牲になってきました。また、多くの大火によって幾多の生命が犠牲になってきたわけです。今回もまた苦労して復元された城が火災によって一蹴されました。

私どもの企業集団は、その火災による犠牲を出来るだけ抑制して、人々の生命財産を守っていくことを生業として日々精進してきました。戦前より制度の充実、商品開発などに官民一体で取り組んでまいりました。おかげをもって、ここ50年で火災発生件数は半減しています。相当な成果と捉えていいのではないかと思います。とはいえ、こういう国民的資産を失い、また2016年度末に150棟40万㎡が延焼した糸魚川大火、2017年には大型物流センターの12日間に及ぶ火災、翌年は多摩の竣工間際の建築現場火災、2019年には36名にも及ぶ犠牲者を出した京都アニメーションの放火殺人事件、それぞれの要因に違いはあるものの、我々に多様な教訓を示すとともに、対策を求められていると認識しています。

国民的資産の保護の観点から、『国宝・重要文化財の防火対策ガイドライン』が文化庁から出て、従来対策の見直しを示唆されています。改めて我々に課せられた使命は重き課題と受け止め、従来発想からの脱却を心掛けていかななくてはならない等、論されている事を胸に刻み対処していきたいと考えます。

公益財団法人総合安全工学研究所 理事・監事

理事長 田村昌三 東京大学名誉教授
(代表理事)
専務理事 小川輝繁 横浜国立大学名誉教授
(執行理事)
常務理事 福富洋志 横浜国立大学名誉教授
放送大学神奈川学習センター所長
常務理事 若倉正英 (国研)産業技術総合研究所客員研究員
(特非)保安力向上センターセンター長

理事 高木伸夫 (有)システム安全研究所所長
理事 三宅淳巳 横浜国立大学先端科学高等研究院
副高等研究院長・教授
理事 安原洋 東京通信病院病院長
理事 谷質生 日油技研工業株式会社
川越工場工場長
監事 河野晴行 (公社)日本煙火協会専務理事
監事 田中保正 元(一社)日本芳香族工業会専務理事